

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：「飲水思源」～やんばるの水に親しみ、その源に思いをはせる～
- ・実施主体：一般社団法人大宜味村観光協会
- ・対象地域：沖縄県大宜味村
- ・対象とする良好な環境：平南川流域「令和5年度良好な水循環・水環境創出活動推進モデル事業対象」

地域の現状・課題

- 急速に観光地化したことから、来訪者は、フィールドの特性、危険性、地域の自然観への認知がない。認知を広げる情報発信が必要。
- 観光地化の一方で、地域住民と流域との関りは近代化に伴い暮らしの場から離れ薄れつつある。かつての流域での暮らしを元に、来訪者を迎える新しい時代の流域活用と地域の関係を取りまとめ、平南川流域を「地域の宝」として共有し発信したい。
- 平南川流域を持続可能な観光地とする仕組みはまだ十分と言えないことから、制度設計をする必要がある。

実施項目（事業内での取組）

- 増進活動実施計画の申請と運用
- インターブリテーション全体計画策定と人材育成
- 持続可能な情報発信プロジェクト2～深堀りしたビジョンの発信～

R7：地域の宝とは

実施項目（事業内での取組）

- 地域資源の現状把握・ガイディング（コンテンツ）方針の調査
- 持続可能な情報発信プロジェクト
- インターブリテーションの検討
- オーバーツーリズム抑制の検討

目指すべき姿（中長期ビジョン）

- 国内外からの来訪を、新たな地域復興の機会としてとらえ、来訪者と地元住民が協働し、地域がより良くなるリジェネラティブな取り組みをすすめるため、これを担保する「責任ある観光」の体制を確立し、将来にわたり推進すること。

R9：流域全体へ
(事業期間終了後)

R8：推進体制構築

実施項目（自走化）

- 最上流部～下流マングローブ林を含む、流域全体への「良好な水環境」保全活動の拡大
- パークキーパー育成強化
- 持続可能な情報発信プロジェクト～効果検証とプラッシュアップ～

対象となる良好な環境の概要

- 「平南川流域」は、大宜味村の水源地と、沖縄県内でも数少ない「水辺の自然体験」ができる観光地「ター滝」を併せ持つ流域です。古くから地域の人々にとって、豊かな森の恵みを育みそして運び、田畠を潤し、子どもたちの遊び場と、「暮らしの場」として、重要な場所です。
- 大宜味村観光協会では、ター滝の指定管理者として、来訪者へのター滝の紹介と、日常的な天候把握・安全情報発信、緊急対応、流域環境保全活動に加え、地域住民が観光を通じて参画するとともに地域を支える人材を育成することに取り組んでいます。



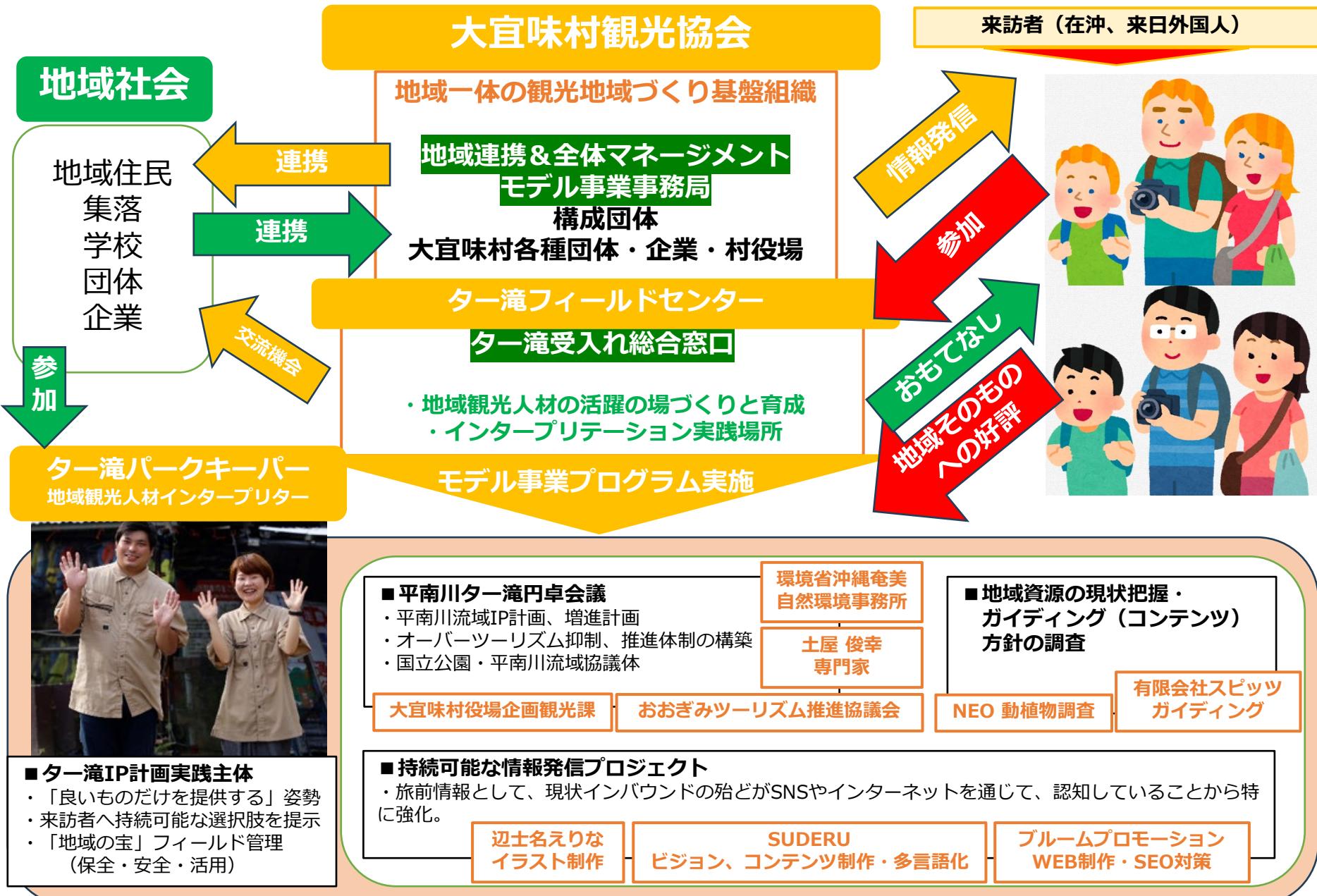
良好な環境に係るストーリー

- ①地域が愛する平南川ター滝と、これに連なるやんばるの自然を感じてもらう
 - ②来訪者と地域による環境保全活動への参加
 - ③自然体験に参加する人が、自身の責任ある観光の一環として、安全管理に必要な行動をおこなう
- 大宜味村では、先祖から受け継いだ貴重な財産である平南川流域を、広く世界の人々と協働し多様な人々が楽しみ学べる場所として、よりよい形で次の世代へ繋ぎたいと考えています。地域の精神性は、琉歌からも感じることができるでしょう。

「平南走川水上の真水、間切りお真人の宝さらめ」
～平南川の清らかな流れは、万人の宝なのだ～



実施体制（図示）



【R7年度取組】

地域資源調査【実施中】

- 平南川流域の内、ター滝周辺 哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・低生動物・鳥類・植物の 調査を実地。

◎夏期の調査を完了。

ビジョン制作【実施中】

- 地域の自然的特性と歴史・文化・産業の結びつきを踏まえたストーリー、来訪者に打ち出すべきメッセージ、地域としてのブランディングに関する戦略

◎方針・シナリオ完了

HP制作【実施中】

- 旅前情報として、世界に向かってター滝の安全情報やブランディングをメッセージとしてHPを通じて発信する。

◎サイト構成（サイトマップ、ワイヤーフレーム）完了

制度設計【実施中】

- すべての来訪者に案内できる インタープリテーション全体 計画の方針、保全と利用の好 循環を実現するための利用の ルールや、利用の対価が保全 に再投資される仕組みづくり に関する検討。

◎ガイディング講習 完了

特に工夫した点・取組成果

- 鳥類、哺乳類を対象に定点力 メラによる調査を実施。
- 秋冬期動植物調査を実施予定。
- 次年度は今年調査出来なかつ た期間の調査を予定。

◎結果はフェノロジーの紹介 などインターペリテーションで活用、また今後のモニ タリング手法策定など保全 に資する。

特に工夫した点・取組成果

- 動画撮影と映像編集
- イラスト制作
- 看板印刷

今後のスケジュール

- メインビジュアル、キャッチ コピーの選定
- テキスト作成
- 10月 コーディング・CMS
- 11,12月 テストサイト公開
- 1月 - 公開

今後のスケジュール

- 第一回の検討会議：10月27 日開催予定
- 第二回検討会議：1月中旬開 催予定

R7年度のゴール

- 持続可能な観光ビジョンの方針作りと情報発信の試行・保全と利用の好循環を実現するための利用 のルール、オーバーツーリズム抑制の制度設計の枠組みの整理。

課題

- ・観光収入が地域環境に再投資される仕組みとして、地域観光人材の雇用と安全・保全活動推進、将来を担う地域児童生徒 への自然体験・環境教育の充実を推進し、この取り組みをIP計画、HPを通じて効果的に可視化できるようを整えること。
- ・平南川流域において、かつての人々が大切にしていた文化・神聖性を踏まえた資源管理を重視した仕組みとすること。

取組内容1：地域資源の現状把握・ガイディング（コンテンツ）方針の調査

■取組内容



専門家同行による流域生物踏査



行政との合同現地視察



先進地視察
フィールド管理者によるインターブリテーション（高尾山）



ガイディング講習
水の里山歩きプログラム造成の調査

■取組の成果

◎生物調査・合同現地視察

- ・現状が徐々に明らかになり、ター滝の複雑な状況を地権者である大宜味村と共有できることで、今後のモニタリング（保全・安全・活用）への理解が進んだ。

◎先進地視察

- ・先進地の知見を得て、フィールドを管理しながらすべての来訪者へのインターブリテーションについて必要性についての理解が深まった。

◎ガイディング講習

- ・川の楽しみ方と安全確認のあり方について、ガイド事業者よりアドバイスを頂き、実際の来訪者の行動について理解を深めた。得られた成果は「水の里山歩きプログラム（すべての来訪者が川に親しむためのモデルプログラム）」として、ター滝インターブリテーションへ反映させる。

取組内容2：ビジョンと情報発信（動画・HP制作）

■取組内容

■ビジョンと情報発信全体のコンセプトと動画シナリオ作り

コンセプト：ゆかる水ぬ源。

※「ゆかる」は「縁が繋がっていくこと」。沖縄で「ゆかる日」はよろこびの日を指します。

この滝のはじまりや 奥ゆかしき天の雫。山に守られ 森に包まれ 里を潤してきた川。人は水の恩恵で暮らし 水面はその心を映し出す。清き水の源に分け入ってわらび（童子）の心で遊び。自然への感謝と畏怖をちむ（肝）に深く落とせば、今日ぬ ゆかる日に 滝の水も澄みわたる。

■シナリオ概略

3つの動画を通じて、旅人の心の変化を導く

→「ター滝を訪れ、全身で楽しみ、地域の想いを知り、共に未来へつなぐ」ストーリー

1. 安全ガイドビデオ ～旅前の準備と心構えを整える
2. 小さな冒険ガイド ～ター滝の地誌と、地域の子どもになってター滝で遊び、学ぶ
3. 持続可能な未来へ ～地域の想いと取組を知り、共にサステナブルな未来をつくる

ター滝を訪れる人が「安全に楽しく水と触れ合い、心に残る体験をする」物語を経て、訪問を重ねるうちにター滝のことを大切に思うようになり、もう一步進んで、「地域の人たちの想いや取り組みを知り」、共に未来のター滝をつくっていくというゴールを設定する。

平南川ター滝流域が、暮らす人にも、働く人にも、訪れる人にとっても、「ゆかる水ぬ源（佳き水のもと）」として持続していくことを願って。

■取組の成果

◎ビジョンと平南川流域の地誌調査

かつての平南川の暮らしと、生活から生まれた信仰や神事を改めて見つめなおすための調査・撮影を行った。今後、地域の人々が山や川へ抱いていた思いをビジョンとシナリオへと反映している。

◎ビジョンを具体化する動画撮影

世界からの来訪者に向けて、ター滝パークキーパーが、インタープリターとして川の魅力を伝える動画を制作。（総集編）



ビジョンのためのシナリオ作り

豊年祭で奉納される「ジャーモーラスン（大蛇踊り）」は、かつて集落を悩ませた大蛇を調伏する芝居。滝の縞帳が特徴的



ビジョンを具体化し発信するための動画制作

調査をもとに、パークキーパー（地域観光人材）による平南川ター滝の安全な楽しみ方の発信のための撮影・編集

■取り組む課題

1. 「責任ある観光」の枠組みの整理

- ①目指す姿 訪問によって地域をより良くする再生型観光
- ②責任分担の明確化 来訪者・管理者・地域それぞれが責任を担う制度、また観光収入を文化的価値・安全・環境保全への還元を可視化する仕組み作り

2. 地域での合意形成と共有

専門的な協議、地元協議会での合意形成と共有。

■課題への今後の対応策

1. 「責任ある観光」の枠組みの整理

- ①ター滝インタープリテーション全体計画として地域のビジョンを取りまとめる。また、運営する大宜味村観光協会においては、将来的にJSTS-Dに準じた組織となるべくDMO化を検討。
- ②ター滝をエコツーリズム推進全体計画における特定自然観光資源として指定し入域条件を定めるべく検討を行う

2. 地域での合意形成と共有

専門的な協議の場である「平南川流域円卓会議」を開催し、課題を整理。地元協議会「おおぎみツーリズム」地域協議会にて合意形成と共有を図る。

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み

保全の具体的な内容・方法

- ター滝パークキーププロジェクト
 - ・来訪者に向け（保全・安全・体験向上）レクチャー
 - ・日常的な環境、安全モニタリング、避難道管理
 - ・リスク管理と流域保全活動
 - ・官民連携の協議体運営（安全確保や見守り体制）
 - ・持続可能な観光学習、人材育成の取り組み推進。
 - ・大宜味村が取り組む観光人材事業「おおぎみ案内人」の、「ター滝」におけるインタープリターとして役割を担う
- 責任ある観光を具体化し来訪者へ提示する活動
 - ・安全と体験向上を助けるライフジャケットなどのアイテムの用意と必要性の説明。
 - ・「マイボトル推奨」と併せた「地元の名水やり売り」による持続可能な使い捨て容器削減活動。
 - ・河川環境維持活動の一環として、河川のゴミを持ち帰って来た方を記念撮影し、感謝の写真をお渡しする。

活用の具体的な内容・方法

- 世界各地から訪れる人々に、地域人材がター滝を「地域の宝」として、責任ある観光を推進する、デジタル＆アナログによるインタープリテーション
 - ・**旅前、旅後**：ター滝の魅力と地域の自然観・マナーを伝える情報をインターネットを通じて発信。体験後、来訪者が、自國の人々に向けたメッセージを書き入れるデジタル空間での双方方向な仕組みづくり。
 - ・**旅中**：人と人が顔を合わせ大切なことを自らの言葉と行動で伝え合い、アナログツール（看板・シート）などで理解を助ける。デジタル空間を離れ、身体性をもって自然へと向き合う準備をサポートする仕組みづくり。
- 来訪者への安全確保と体験向上、循環社会を目的としたアイテムや取り組みの活用増進による収益増加

活用から保全への還元方法

- 活用と保全が一体となったプログラムへの来訪者の参加「訪問によって地域をより良くする再生型観光」
- エコツーリズム推進法に基づく特定自然観光資源への指定による「観光の収益を安全・保全に還元する仕組み」の確立、オーバーツーリズム抑制の制度設計。来訪者・管理者・地域それぞれが責任を担う「責任ある観光」の枠組みを整備。観光収入を文化的価値・安全・環境保全への還元を可視化する仕組み作り。

【R8年度取組】

環境モニタリング手法策定

- 平南川流域の内、ター滝周辺 哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・低生動物・鳥類・植物のモニタリング手法を策定し、試行。
- 前年度未達の春夏期調査実施

コンテンツ強化

- 昨年度の映像コンテンツ、テキストを発展させ新たに追加①サステナブルな取り組み②地誌・信仰について③環境を守る注意事項
- 情報発信の効果検証
- 英語専用サイトの追加

人材育成

- インタープリテーション全体計画の策定、冊子の作成。
- インタープリテーションの実践・ター滝で働く地域人材スタッフが、すべての来訪者へインタープリテーションを実践するための人材育成。

制度設計

- 平南川流域増進活動実施計画の策定と、自然共生サイトへの登録。
- 入域制度の制度内容検討による、観光収益を還元する仕組み作り。

想定する成果

- これまで不明であったター滝の環境状況が明らかになり、保全活動の方向性や活動の効果性が図られ、保全の取り組みが明確化する。これはインタープリテーションを充実させる。

想定する成果

- 昨年度のター滝の概要を伝えるコンテンツに、上記映像やテキストを追加することは、より深くター滝を知り大切に思い、保全活動への参加につながる。

想定する成果

- 地域人材がインタープリテーションを整理し、実践することは、平南川流域において、かつての人々が大切にしていた文化・神聖性を来訪者に深く理解していただくきっかけとなる。

想定する成果

- 保全活動の取り組みを強力に推進することに加え、「観光の収益を安全・保全に還元する仕組み作り」を具体化することは持続可能な観光地づくりを確かなものにする。

R8年度のゴール

- 持続可能な観光ビジョンに基づいた保全活動への、インバウンドの認知拡大と参加増進
- 「観光の収益を安全・保全に還元する仕組み作り」の具体化と実施体制強化のための雇用確保
- 保全活動の取り組みを整理し、「自然共生サイト」へ登録。

想定される課題

現行の安全・保全の取り組みは制度的な裏付けがないこと、活動場所は国立公園内であることから、国の規定に基づいた制度にかなう活動として整理したい。今回の事業を通じて活動の位置づけを明確化し、活動の公的な認知と円滑な実施を図りたい。